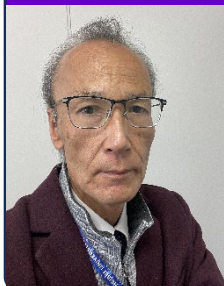


対話力（話し合う力）が身につく授業



【池袋キャンパス】 ヒューマンケア学部 柔道整復学科 教授

富田 晴生 Tomita Haruo

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

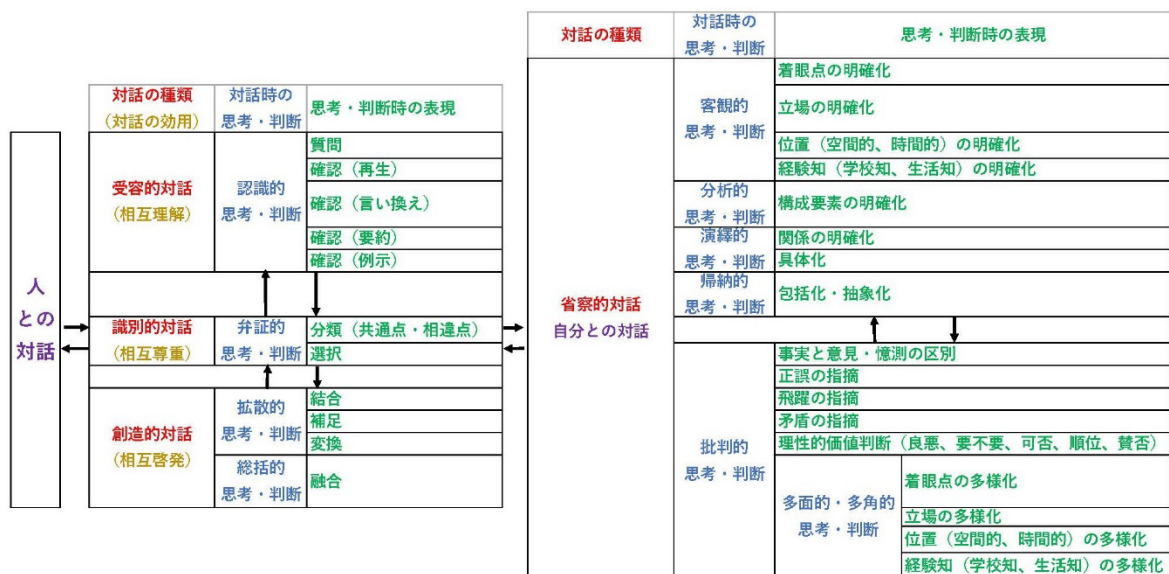
キーワード : 国語科教育・話す、聞く・思考力、判断力、表現力・対話



研究の概要

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

学校で児童生徒に話し合いをおこなわせるときの教師の指導活動には次のようなものが多い。「①課題提示→②話し合いのやり方の説明→③開始の指示→④机間指導→⑤各グループに話し合いの経過と結果発表の仕方を指示→⑥学級全員での交流とまとめ」。この中で、②の話し合いのやり方についての研究授業をおこなう学校が増えている（例えば、KJ法、ワールドカフェなど）。このとき児童生徒は、話し合いのやり方・形式に沿って話し合おうと努力する。しかし多くの場合、この努力は、話し合いで重要なはずの考え・ことばの深化・拡充よりも形式の遂行による成就感を獲得する方向へと向かう。たしかに、形式によって自他の考え・ことばが深化・拡充することはある。しかしどのような形式で話し合うにしても、相手の考え・ことばのとらえ方(受容)、自他の考え・ことばの比較の仕方(識別)、自他の考え・ことばが生きる新しい考え・ことばのつくり方(創造)、これらの習得・活用がなければ、その話し合いは浅薄な流れと結果を生む。受容、識別、創造の各対話力の習得・活用につながる学習指導活動の構築と実践をめざしたい。



実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

児童生徒の対話（話し合い）が授業において重要だということは理解しているがそのやり方がよくわからないという教員が学校にいる場合、教員の授業力を高めるための研修会や研究授業後の研究協議会等で、児童生徒の対話力育成のための視点や具体的な方法を提供することができる。また児童生徒の対話（話し合い）を授業の中でどう生かすのかについて、教職課程に学ぶ学生の模擬授業や教育実習時の授業等での学習指導案の作成に活用させることができる。さらに職場で日々開催されている会議を機能的かつ生産的におこなうための視点と具体的な方法を提供することができる。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「改訂版 道德教育のフロンティア」
- ・「学校で育む対話力」
- ・「教育と教職のフロンティア」